

技術で豊かなまちづくり

平成14年1月1日

高知土木技士

No.30

(社)高知県土木施工管理技士会 [高知市本町4-2-15 建設会館5F TEL825-1844]



平成13年度表彰 高知県優良建設工事

施 工

ミタニ建設工業 株式会社

工 事 名

弘岡中復旧治山工事

場 所

吾川郡春野町弘岡中

現場代理人

高 橋 正 典

土木施工管理技士会倫理綱領

会員は、国家資格者として誇りと品格を保ち、
常に自己の資質と技術の向上に努め、
社会に貢献すること。

(誇りを持つ)

1. 土木技術の国家資格者として誇りを持って行動し、日頃から技術の研鑽けんくわんに励むこと。

(技術力を活かそう)

2. 技術者として自己の専門的知識及び経験をもって良質な物を作ること。

(公正な行動をしよう)

3. 携わる事業の性質から、公正・清廉けいれんを尚たっとび、広く模範となる行動をすること。

(ボランティアに参加する等、社会に貢献しよう)

4. 技術者として知識・経験を活かし、災害時等はもちろん、普段の生活においても、地域活動や社会奉仕に積極的に参加するよう努めること。

新年のご挨拶

社団法人 高知県土木施工管理技士会
会 長 宮田 益 吉

年頭にあたり、会員の皆様に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年が、皆様にとりましてまたご家族にとりましても希望に満ち、明るく穏やかな時を刻むことができますよう祈念しております。

昨年を振り返りますと、景気は小泉内閣誕生に構造改革の進展を踏まえた、本格的景気回復を軌道にのせるための経済効果に期待が寄せられましたが、実態経済は個人消費や設備投資などの回復弱く、長引く景気低迷状況が続いており、結果的に経済の悪化と雇用破綻を招いている中で、米中枢同時テロ事件、情報技術（IT）不況を主因とした世界経済の減速、狂牛病問題の影響、年末には大手ゼネコンの破綻も生じ、最終処理の「聖域」とされてきた有力ゼネコンにメスが入ることで、不良債権処理が一段と加速するのが確実となり、高知県におきましては、'01高知西南豪雨など自然災害に加え、公共事業費の縮減などで先行き不透明な状況が続いており、建設業の経営環境が一層深刻になっていると言わざるを得ないものと思います。

しかし、政府は昨年末の第2次補正予算執行の中で公共投資による社会基盤整備が盛り込まれたのをはじめ、各般の施策が図られようとしているところです。

これら各種政策の効果等により景気回復が図られることを期待したいものです。

当技士会は、任意団体として昭和55年4月に発足し、昭和59年8月に社団法人として認可されて皆様からご指導を頂きながら今日に至っているところです。

会員が現在約2,200名近くであり、全国に在ります48技士会会員8万8千人余りの中で、2千人以上の会員を有する18技士会の中にあり、四国4県の中では、一番多くの会員を擁する技士会であります。これも会員並びに会員所属会社のご支援のたまものと深く感謝申し上げます。

発足当時からみれば、建設産業を取り巻く環境は近年特に大きく変化してきたところです。

昨年4月以降施行された「公共工事の入札契約適正化法」「建設産業再編促進策」の動向など、結局は、技術と経営に優れた企業が伸びられる環境作りを進める必要があり、量的な面から質的な面へと経営転換をはかる一方、企業間の連携強化など各企業の自助努力が強く求められるところです。

私どもは、土木施工管理技士として社会資本整備の担い手であります土木技術者に課せられた責務は重要であります。

このため、常に社会的使命を認識しつつ、新たな発想を基に未来を創造する建設産業の施工管理技士としての誇りをもって、自己研鑽を重ねつつ技術の向上に努めなければなりません。

このようなことから、当技士会では研修・講習会等各種事業を積極的に実施し、一方、このことが技術者にとって生涯学習（土木施工管理/CPDS）の場として寄与して参りたいと考えているところであります。

最後になりましたが、会員並びに関係の皆様のご理解、ご支援をお願いし、併せて皆様方のご健勝・ご多幸を心からお祈りいたしまして、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

高知県土木部長 安岡 健

新年あけましておめでとうございます。土木施工管理技士会の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より、土木行政の推進につきまして何かとご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

昨年は21世紀のスタートの年を迎え、決意も新たに土木部長として様々な課題に取り組む中、早くも1年が過ぎました。

国においては、聖域なき改革について、財政面は勿論のこと、あらゆる構造・システム等に関し、より具体策を国民に提示すべく積極的な議論が展開されています。

新世紀に移行した今日、社会経済等の情勢は、少子高齢化に始まり、情報化の加速度的な発展、環境問題への更なる関心と循環型社会への移行等公共事業を取り巻く環境は大きく変化しております。

中でも、公共事業費の削減や道路特定財源の見直し問題も提起され、益々厳しい時代となり、今まさに大転換期を迎えています。

高知県にとっては、一昨年四国4県都が直結する「エクス・ハイウェイ」が開通し、本格的な高速交通ネットワークによる広域交流が実現しました。これらのインフラ整備を最大限に活用するためにも、本県社会資本の整備を計画的、効率的に推進し、新たな時代の礎である県土づくりを積極的に進めてゆく必要があります。

また、本県は98高知豪雨をはじめ、昨年は高知県西南部豪雨という未曾有の大災害を受け、これらの早期復旧・回復に向け喫緊な対応が大きな責務となっております。

こうした社会情勢の変化を踏まえながら、本県の公共事業においても厳しい財政状況のもとで、当県の遅れている社会資本を着実に実行してゆくためには、更なる事業の選択や整備の重点化、透明性、効率性の確保を一層推進する必要があります。

このため、県では全国に先駆け、多様な入札契約制度の改善やワークショップによる整備手法、中長期的な整備方針・指標づくりにも鋭意取り組みを進めております。

また、これまで工事コストの低減に取り組んできたところですが、これらを引き続き実施すべく、平成15年度までの3年間で当面初期の期間として、直接的コストを5%以上縮減するなど、総合的縮減対策として「第2次行動計画」も実行しております。更に今後とも、既存ストックの有効活用や適切な維持管理を行い、限られた財源の中で県民ニーズに的確に対応し、安心して快適な暮らしができる県土づくりに取り組んでまいります。

事業に携わる我々建設技術者は、社会ニーズに的確に対応できる人材が求められており、一昨年からはスタートした高知県土木施工管理技士会が先導するCPDS制度を更に発展させ、土木技術者全体の資質向上とその成果を大いに期待しているところです。

よりよい県土づくりのため、高知県土木施工管理技士会の益々の発展と皆様のご活躍を心から祈念し、新年のご挨拶といたします。

● 技術コーナー ●

高知駅周辺都市整備計画の概要

高知県高知駅周辺都市整備事務所
計画班長 戸 梶 早 夫

(1) 経 緯

本州四国連絡橋の完成や四国横断自動車道の整備等により、県土開放化の時代を迎え、他の都市や地域と競い合っていくためには、県都高知市の都市整備が重要な課題であり、特に高知駅周辺の都市整備は高知市、ひいては高知県全体にも大きな影響を与えるものです。

昭和48年に、高知駅周辺の連続立体交差事業は事業採択されましたが、県民の理解を得ることが出来ず、昭和52年に中断された経緯があります。

その後、高知県と高知市が一体となって、街づくりの観点から連続立体交差事業を核とした高知駅周辺の土地区画整理事業などを計画しました。

平成4年には計画案について沿線住民の方々に説明を始め、平成5年からは個別面談方式も取り入れて、細やかな説明も行い、また関係する団体や住民の方々と知事、市長が直接意見交換を行うなど、理解と協力を要請してきました。

平成6年には事業が採択され、平成7年11月に都市計画審議会の答申を得て、12月1日にはJ R土讃線の連続立体交差、駅周辺の土地区画整理及び関連街路等が都市計画決定され、平成9年1月28日に事業認可が告示されました。

これらの事業を円滑に推進するため、平成8年4月1日に高知駅周辺都市整備県市合同事務所が開設され測量調査・用地買収、工事等の本格的な事業実施体制に入りました。

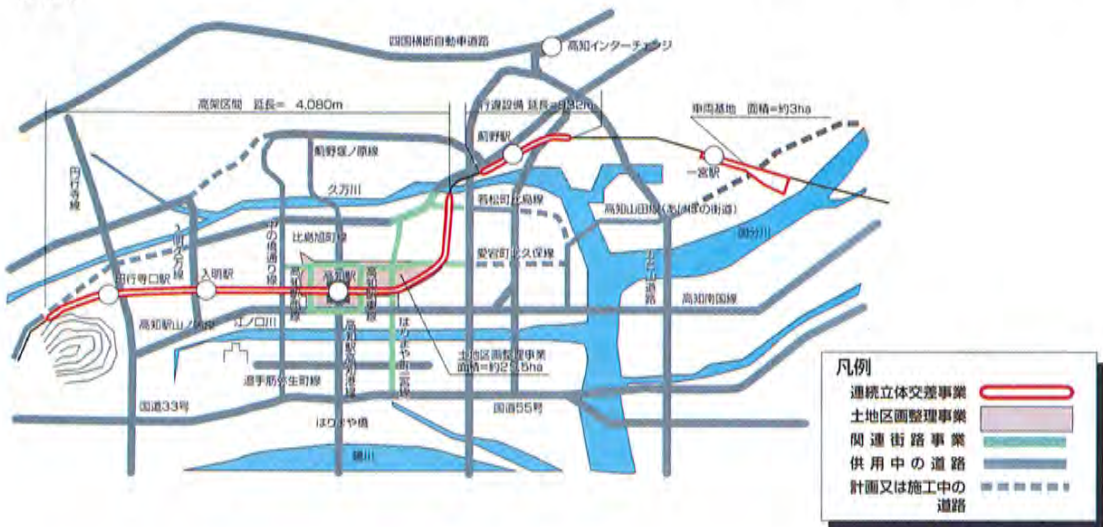


図-1 位置図

(2) 概要

県都高知市においては、近年の市街地の発展に伴い、JR土讃線が市の中心部を東西に貫通するかたちとなり、特に高知駅周辺で以下のような課題があります。

- ① 鉄道により市街地が分断されている。
- ② ラッシュ時には踏切により交通渋滞が発生している。
- ③ 高知駅は陸の玄関口であるが、駅前広場は狭く、他の交通機関との乗り換えが不便である。
- ④ 高知駅の北側は、道路が狭く、住宅が密集している。
- ⑤ 高知駅周辺には、十分に活用されていない広大な土地が残っている。

これらの課題を解決し、高知駅周辺を活性化するのが、「高知駅周辺都市整備」です。その主な事業には以下の3事業があります。

1. JR土讃線連続立体交差事業
2. 高知駅周辺土地区画整理事業
3. 関連街路事業

これらの事業により県・市一体となって、基盤整備を進め、高知駅周辺に創出する拠点街区に新しい都市機能を導入し、高知の陸の玄関にふさわしい賑わいのある総合的な街づくりを行う計画です。

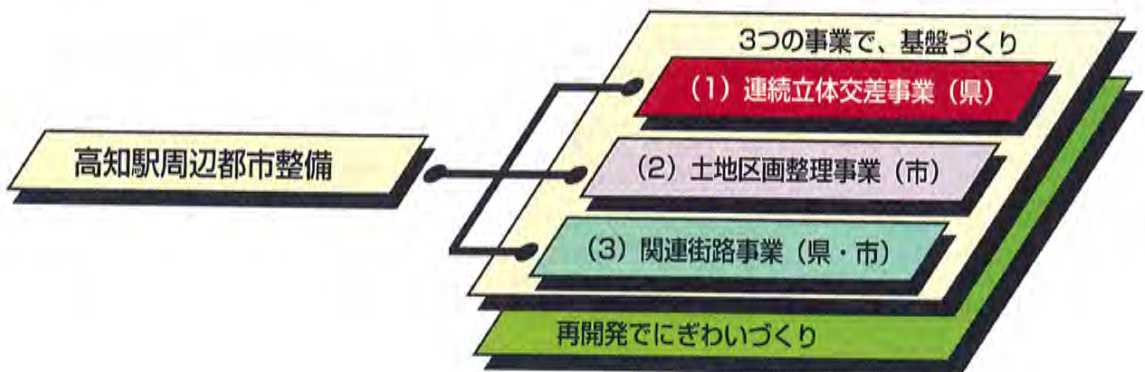


図-2

1) JR土讃線連続立体交差事業（高知県）

・高架区間：工事延長 $L=4,080\text{m}$

久万川堤防から円行寺線を越えて山ノ端踏切まで高架化し、11箇所の踏切を除脚します。

・行違設備：工事延長 $L=932\text{m}$

JR土讃線は単線のため、車両基地への回送列車が行違いできるように、薊野

駅付近を複線化します。

- ・車両基地：面積 A = 約 3 ha

現在の車両基地が高架化されるのに伴い、布師田地区へ移転します。

- ・事業期間：平成8年度～平成17年度
- ・総事業費：約510億（内JR負担50億）

2) 高知駅周辺土地区画整理事業（高知市）

- ・施行面積：約29.5ha
- ・事業期間：平成8年度～18年度
- ・総事業費：約315億

3) 関連街路事業（県・市）

- ・はりまや町一宮線（W = 25m）

4車線の幹線道路で、はりまや橋に集中する交通を緩和するため、はりまや町～比島町を整備します。

- ・愛宕町北久保線（W = 16～25m）

2車線の街路ですが、高知駅部の北では4車線で整備し、拠点街区を形成します、愛宕町～江陽町を整備します。

- ・高知駅東線・高知駅西線（W = 25m）

4車線の幹線街路で、拠点街区を形成します。

- ・若松町比島線（W = 22m）

比島町と弥右衛門地区を結ぶ4車線街路で、鉄道部は掘割方式で交差します。

4) 再 開 発

拠点街区へ新しい都市機能を導入し、高知の陸の玄関にふさわしい賑わいのある街づくりを推進するため、委員会を設置し再開発の基本的な構想や計画について検討を進めてまいります。

5) 特定公共施設関連環境整備事業（県住宅課）

連続立体交差事業で移転を余儀なくされる方々が入居するため、県営住宅（50戸）を八反町に建設することとしています。

(3) 県事業の進捗状況

1) 連続立体交差事業（鉄道高架）

平成8年4月の事務所開設以来、積極的に地元説明会等を開催し、地元の方々のご理解、ご協力を得ながら測量・調査業務に取り組み、現在では極一部の地権者の方を除き、ほぼ完了いたしました。

用地買収については、平成13年9月現在86%の進捗であり、残りの地権者に懸命に取り組んでおり、早期買収完了を目指したいと考えております。

そして工事については、高知駅から東の仮線区間が完了した区間と別線区間の愛宕地区周辺については、平成13年11月から高架本体工事に着手し、終点部の南万々地区の仮線工事にも年度内に着手する予定です。

また本格的に工事が始まるのを受け、高知駅東地区や愛宕地区については、高架完成後の側道や高架下の利用方法について、地域の皆様の意見を反映するため、ワークショップ形式で検討しています。

高架事業独自の施策として、関係地権者には代替地斡旋や、特定公共施設関連整備事業により、県営住宅を整備しておりますが、この住宅の建設地（高知市八反町）から平成12年10月にダイオキシン類が検出され、その処理に多くの時間を費やしました。

その後、平成13年6月から住宅建設工事を再開し、年度内完成を目指しています。

行違設備区間については、平成13年2月に完成し、概に供用しております。車両基地は、造成工事は概ね完了し、建物・機械・軌道・電気等の施設工事を進めており、平成14年3月に車両基地機能の移転が実現する運びとなります。

2) 街路事業（はりまや町一宮線）

(1) 比島工区

地形・用地測量は、ほぼ完了し、物件調査につきましても順次必要箇所を実施しており、一部用地買収済みの区間の工事も併せて実施し、事業の進捗を図っています。

(2) はりまや工区

平成12年度新規工区として着手し、江ノ口川から北側の区間では、地形・測量もほぼ完了し、用地買収に取り組んでおります。

また、江ノ口川から南の区間では、現在の新堀川の大部分を使用することから、その形態や道路のあり方等について、ワークショップを開催し検討をしております。

そうした経緯の中で、絶滅危惧種や希少種として登録されている水中生物が確認されたため、検討委員会を設置し検討しております。

3) 鉄道高架の景観について

高架のデザインについてですが、都市の景観に配慮するため、鉄道構造物の専門家や県内に在住の方々、その他関係機関の代表者を委員とする景観検討委員会を平成8年に設置し、景観の基本的な考え方やデザイン案などについて検討していただきました。その提案を一般の方々にお示しし、ご意見をお聞きして、デザインを決定しました。

また、平成11年には景観懇談会を設置し、入明・円行寺口駅のデザインや実現化をめざして細部の検討を行いました。

高知駅部のデザインについては、平成13年から県民の意見を幅広く聞くため、アンケート調査を実施し、県民の皆様の意見を建設に反映させ、県民に愛される新高知駅の実現をめざして行きます。



図-3 イメージ図

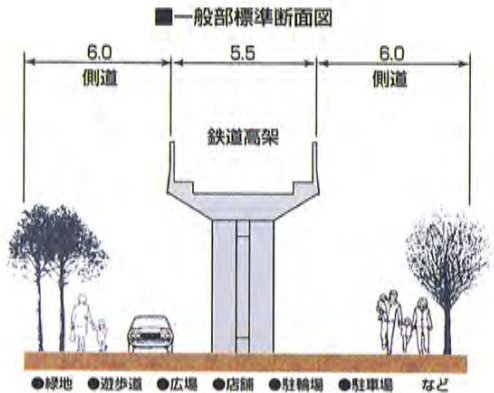


図-4

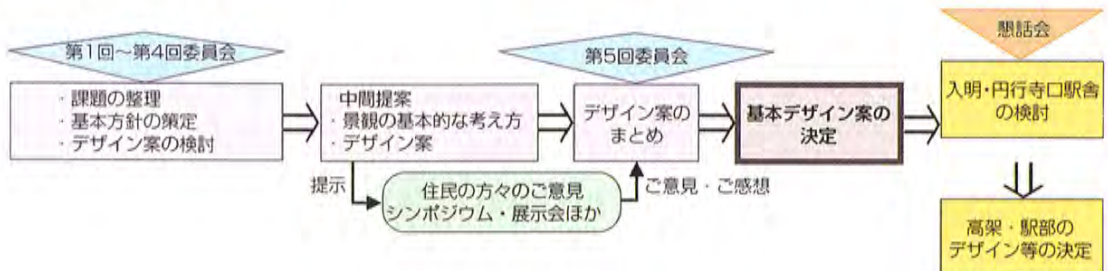
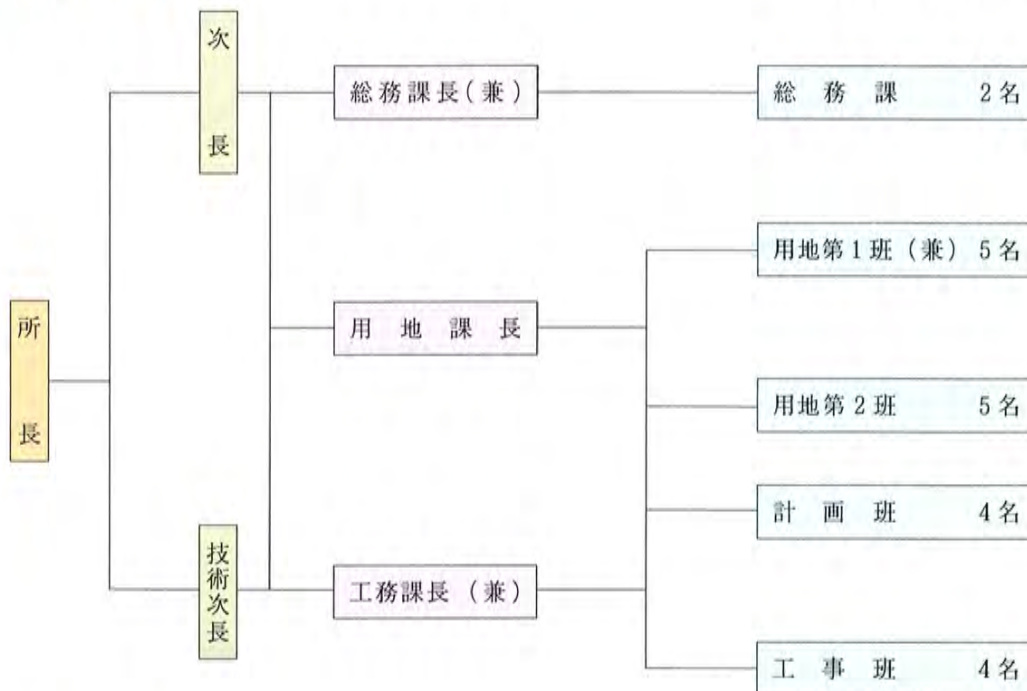


図-5

(4) 事務所の体制

1) 機 構

平成13年4月1日



2) 現員表

	事 務	技 術	計	その他(嘱託)
所 長		1	1	
次 長	1		1	
技術次長		1	1	
総 務 課	2		2	
用 地 課	10		10	2
工 務 課		8	8	
計	13	10	23	2

佐藤所長以下、職員22名と嘱託2名の25名体制で、高知駅周辺都市整備の早期完成に向け努力するとともに、未買収地の早期解決に向け、職員一同一丸となって取り組んでまいります。

これからもご指導よろしく願いいたします。

会員の広場コーナー

弘岡中復旧治山工事を施工して

ミタニ建設工業株式会社 光内博文

被災時の状況と国道応急復旧

夜中というのに、辺り一面を真昼の如く照らし出すカミナリの連続は、未だかつて体験した事のない大雨であり、バケツで水を撒くとはこのことである。

平成10年9月24日～25日にかけて降り続いた未曾有の豪雨は、川の水をみるみる増水し、堤防を越え、その水は濁流となり道路を越えて家屋や田畑を水の中に沈めていった。人々は、思いもかけない濁流に唾然と戸惑うばかり。これが全ての始まりだった。

この時、自分達の工事現場は、国土交通省（当時建設省）の荒倉改良（その1）工事（高知県吾川郡春野町弘岡中飛石）を施工しておりました。大雨警報も発令されており、現場事務所（R56沿）にて非常時に備え、現場周辺の巡視をしながら待機しておりましたが、24日の22：00頃、現場事務所が床上浸水し、又、ほぼ同時刻、国道も冠水のため通行止めとなったので、自分達は国道にて各自の車内で見張りをしていましたが、豪雨とカミナリ（初めて雨とカミナリが恐いと感じた。）に危険を感じ、急きょ荒倉トンネルを抜けすぐ近くの本社へ避難しました。

それから間もなく、翌2：00頃荒倉が「つえた」と言う1本の電話での通報があり、即現場に引き返しました。ところが、まさかという情景で、目の前の光景が一瞬理解できませんでした。自分が担当している現場ではなく、反対側の山腹が大崩壊を起こし、国道を埋め尽くしイヨ川をも埋め、河川の氾濫水が国道を流れ自動車修理工場を丸のみし、無数の車が無残な姿で土砂に埋もれていました。その中にはテールランプやヘッドライトがついたままの車があり、まさか通行中の車が巻き添えになったのではないかと思い、対面のゴルフ練習場の上からライトで照らしながら確認していますと、崩れかけた家の方から声がするようである。耳を澄ますと女の人で「助けてー」という声が聞こえ、そちらにライトを当てると手を振る姿が確認でき、すぐさま消防署に救助を要請しました。救助作業は国道が土砂にて濁流化し、春野町側からは救助出来ず、高知市側よりボートにて女の人一人、子供一人を無事救助できました。そして心配していたライトのついている車を救助隊の方が調査して、人が居ないか確認しましたが、誰も乗っていないとの事で、とりあえずホッとしました。

そして、3：00頃、一度本社に帰り緊急事態の発生状況を報告し、夜明け5：00に再び現場に向かいました。それから国土交通省の要請により、自分が担当している本工事で国道の応急復旧工事を緊急に施工することになりました。



写真-1 山腹崩壊状況



写真-2 崩土により自動車修理工場や家屋を共用中の国道まで押し出す。四車線化の工事安全防護柵が崩土を止める。

まず、復旧作業は、せき止められたイヨ川の水替えポンプ、8インチ5台を設置し、プレスト管φ800、4条(ΣL=589m)にて仮水路のバイパスを確保し、上流側の水位を低下させ浸水家屋を解消しました。そして国道回復を最優先に崩壊土砂16000m³の撤去と、舗装工約4000m²、その他水路工、区画線工、雑工を延べ約1200名が高知監督官の指揮のもと土佐国道工事事務所と一体となり、24時間体制で会社総力をあげて復旧にあたり、9月25日の朝6:00に工事を着手し、10月3日の朝6:00に国土交通省の立会いのもと早期に開通する運びとなりました。



写真-3 水路のバイパス、プレスト管布設状況



写真-4 プレスト管の上に路床碎石を敷均した状況。鋼板を全面に敷いてアスファルト舗装を施工する。

弘岡中復旧治山工事の概要

弘岡中災害復旧治山工事の概要は、次に述べるとおりであります。

斜面安定の主体工事は、崩壊した不安定土砂6万 m^3 の内、5万 m^3 を土佐市高岡へ残土処理し、残り1万 m^3 を下位部の押さえ盛土として流用したほか、中位部にアンカー工30本を1段施工し、斜面全体の安定を図っております。復旧治山ということから、植生の復元力を活用した法面緑化工を採用することにより、自然林の回復を目標に緑化を行いました。

斜面安定工事として、高位部は法枠工3300 m^2 を、枠内は一部モルタル吹付けと種子吹付け、厚層基材吹付け3cmを施工するとともに、中位部は法面種子吹付け及び丸太筋工、丸太柵工に郷土種のポット苗を植栽したほか、下位部の押さえ盛土の法面は植生ネットで緑化をしました。なお、法枠工の一部にアンカー工18本と正面右側に帯工を併用した水路工を施工しました。(写真-5参照)

工期は、平成11年3月29日から平成12年3月31日の12月でありましたが、安全を第一に工事を進捗し、事故もなく無事完成することが出来ました。写真-6は、平成13年10月に撮影したのですが、緑化が進行し自然への回復が伺えます。

本工事の施工に当たっては、高知県伊野林業事務所の方々のご指導を頂いたことに対して、謝意を表する次第です。



写真-5 工事完成の全景



写真-6 自然の回復が進んでいる状況
平成13年10月撮影

おわりに

このような災害が発生しないことが一番ですが、相手は自然で、いつどこで発生するかもわかりません。南海大地震も心配される今日この頃ではありますが、我々建設業にたずさわる者の使命として、緊急事態において地域住民の安全を確保することに対し、遺憾なく行動することが、第一と思考するしだいです。

委員会コーナー

「土木技術について最近思うこと」

制度委員会 嶋崎勝昭（株式会社 兎立 社長）

現在、公共事業に対して、又建設業に対して最近のマスコミ報道により、世論は不信感をつのらせているものと思います。そして、そういった中、土木技術者に対しての市場評価が下がっている状況ではないでしょうか。

土木技術者自身も、自信を失いかけているのではないのでしょうか。

10数年前までは、豊かな国土、安全に暮らせる国土を造るため、社会基盤整備にたずさわること、大きな自負心を持っていたかと思います。

ある工学教授が、次のような事を言われていました。

“新聞の連載記事を読んでいる中で、「情報電子のようなハイテクから土木建築のローテクまで」という書き方があり、少しカチンときた。確かに遺伝子工学やITと比べると言われても仕方ないかという部分もありますが、我々も色々と技術開発をしています。”

道路を掘り起こしたり、自然環境を破壊したり、無駄なことをやっているイメージで語られるケースが多いものですから、こういったマスコミの書き方になるのかもしれませんが。土木・建築の技術というものは、何千年もの間に積み重ねてきたものです。これからも引き続き技術開発され、夢のある大プロジェクトが進んでもらいたいものです。そうすることにより、我々地方業者も、そのプロジェクトに決して参加しなくても、同じ分野の一員として誇りを持つることとなります。

医学の世界では遺伝子工学とか最先端の研究開発が行われている中、地方の山村で医療にあたるお医者さんもいるわけです。工学の世界でも、長大橋、超高層ビルなど研究開発される中、地方の山村で、防災工事、道路改良をしている我々地方業者も存在するわけです。その分野での最先端の技術開発が夢のあるものであれば、その業界が魅力的なものとなるでしょう。

是非とも夢のあるプロジェクトが停滞することなく、技術が研究開発され未来へ伝わっていくことを望みます。

そして、地方業者としても、常に技術力の向上に向け努力することが大事であろうかと思えます。幸か不幸か日本の国土条件は大変悪いわけで、中でも高知県は特に悪い。その中で仕事をするのが技術力のアップにもつながります。

これからの土木技術者は、単なる物造りだけでなく、多様性のある技術者となっていかなばならないと思います。そのためにも、技術者同志の連携も必要かと思えます。

幸い、高知県技士会が一昨年からCPDSの名のもとに、技術者の資格取得後における技術力研鑽を目指し、研修・講習会にいち早く取り組んでいることは、技術者集団である私たち技士会活動に力強い支援となっています。またその成果に期待をしているところです。

最後に、高知県土木施工管理技士会への会員加入を、皆さんよろしく願いいたします。

実施行事報告 (H13. 7月～12月抜粋)

- H.13. 7.10～12 県外技術研修会開催 (CPDS対象研修会)
北海道：札幌ドーム見学ほか、会員42名参加
9. 6～ 7 1級土木技術検定(実地)試験受験準備講習会 (121名)
- 9.11 監理技術者講習計2回 (9月11日・11月8日 延200名)
- 11.12 平成13年度土木施工管理技術講習会 (四国4県統一テーマ CPDS対象講習) (190名)
テーマ 「工事現場等における施工体制の点検」「工事成績評定」について
高知県土木部 工事検査室長補佐 中山 建一 様
「施工と会計検査」 会計検査院出身 安川 眞夫 様
「工事安全施工指針」 (株)豊永組 取締役 義丁 憲 様
「ヒューマンエラー」 建設業労働災害防止協会 石井 祥弘 様

※ 四国4県受講者数 (正会員数)

	受講者	(会員人数)
高知県	190	(2,163)
愛媛県	231	(1,924)
徳島県	187	(1,400)
香川県	72	(1,076)



11/12 高知城ホール

- 11.21 平成13年度中国・四国土木施工管理技士会連合会
ブロック協議会及び技術交流会 (於 松山市・ホテルJALシティ松山)
中国5県、四国4県の技士会が集まりブロック協議会を開いた。当日は、全国土木施工管理技士会連合会の本山会長はじめ、各県の技士会会長、事務局長などが出席し、技術交流会に提出する議題の審議を行った。
ブロック協議会終了後引き続き国交省大臣官房技術調査課の黒谷努課長補佐が、「公共工事の執行に係わる最近の動向」と題した講演を行った。その後の技術交流会では、来賓として国交省四国地方整備局 西田壽起局長をはじめ国交省の担当官、愛媛県、山本雅史土木部長など各県の土木部担当者14名を招き、総勢49名により7項目の要望を行うとともに、懇談を行った。



11/21 松山会場

※要望事項の7項目

- ① 土木施工管理技士会所属技士の評価・活用について
- ② 事業活動への理解と支援について
- ③ 2級土木施工管理技士の権限と地位の確立について
- ④ 土木施工管理技士の評価の改善について
- ⑤ 主任(監理)技術者の現場専任制の徹底について
- ⑥ 公募型指名競争入札等に係る応募条件の緩和について
- ⑦ 「技術・技能審査等事業」について

事務局だより

1. 当技士会会員の慶事報告



黄綬褒章受章

宮田 益吉 氏

宮田建設株式会社
代表取締役

昭和12年3月5日生
高知市愛宕山151番地

経 歴

現 職 ①高知県建設業協会常任理事
高知地区建設業協会会長
②高知県土木施工管理技士会会長
③高知県森林土木協合理事
高知地区建設業協会連絡協議会副会長
高知県建設業団体連合会理事
④高知県火災損害協会理事
高知県建設業厚生年金基金互選理事
建設業労働災害防止協会高知県支部常任理事
高知建設業協同組合理事

前 職 ①高知県建設業協会副会長
②高知県下水道協会理事
高知東ロータリークラブ会長
建設雇用改善推進員(労働大臣任命)

受 賞 歴

昭和63年11月 雇用改善優良事業所として労働大臣表彰
平成元年5月 多年功績のある役員として①高知県建設業協会会長感謝状
平成2年5月 業界発展への功勞により②全国建設業協会会長感謝状
平成4年～ 優良施工業者として高知県知事表彰(4回)
平成12年 労働災害防止活動に寄与した功勞に対し建設業労働災害防止協会長表彰
平成9年7月 優良施工業者として建設省四国地方建設局長表彰
平成9年7月 建設功勞者として建設大臣表彰
平成13年5月 建設功勞者として黄綬褒章受章



勲五等瑞宝章受章

西本 篤郎 氏

西本興業株式会社
代表取締役

昭和5年9月11日生
室戸市佐喜浜町2239番地

経 歴

現 職 ①高知県建設業協会理事
室戸地区建設協会理事

前 職 ①高知県建設業協会副会長
室戸地区建設協会会長
高知県建設業団体連合会常任理事
建設業労働災害防止協会高知支部理事
(兼訓) 高知県建設業訓練協会副理事長
②高知県土木施工管理技士会常任理事
高知県建設業厚生年金基金互選理事

受 賞 歴

昭和48年～ 優良施工業者として①高知県山林協会会長表彰(3回)
平成8年 優良施工業者として建設省四国地方建設局長表彰(3回)
昭和49年～ 昭和60年 多年功績ある役員として①高知県建設業協会会長感謝状
昭和60年5月 優良施工業者として林野庁長官表彰
昭和61年7月 業界発展への功勞により②全国建設業協会会長感謝状
昭和62年5月 国道55号の維持管理及び災害復旧に尽力した功績により建設省四国地方建設局長表彰
平成元年・2年 建設功勞者として建設大臣表彰
平成3年7月 優良施工業者として高知県知事表彰・感謝状(4回)
平成4年～ 平成12年 県勢功勞者として高知県知事表彰
平成10年11月 建設功勞者として勲五等瑞宝章
平成13年5月

2. 平成13年度土木施工管理技術検定試験実施結果

1 級 土 木 (学科) 試験日 平成13年7月1日
合格発表日 平成13年8月17日

2 級 土 木 (学科・実地) 試験日 平成13年7月15日
合格発表日 平成13年10月16日

平成13年度1級土木施工管理技術検定・学科試験結果表

試験地	出席者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
札幌	3,585	1,796	50.1
釧路	927	405	43.7
青森	1,706	730	42.8
仙台	5,423	2,855	52.6
東京	15,313	8,564	55.9
新潟	2,565	1,468	57.2
名古屋	7,722	4,081	52.8
大阪	12,341	6,273	50.8
広島	3,480	1,905	54.7
岡山	1,986	1,051	52.9
高松	3,145	1,764	56.1
福岡	9,649	4,717	48.9
那覇	3,074	1,353	44.0
全国計	70,916	36,962	52.1

平成13年度2級土木施工管理技術検定試験実施結果表

試験地	出席者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
札幌	1,260	1,046	83.0
釧路	310	263	84.8
仙台	3,186	2,575	80.8
東京	5,500	4,791	87.1
新潟	1,371	1,113	81.2
名古屋	3,557	3,019	84.9
大阪	3,991	3,320	83.2
広島	1,554	1,332	85.7
岡山	850	674	79.3
高松	1,408	1,242	88.2
福岡	3,681	3,243	88.1
那覇	602	502	83.4
全国計	27,270	23,120	84.8

※ 1 級土木 (実地) 試験日 平成13年10月7日
合格発表日 平成14年1月22日

広報等連絡コーナー

広報委員会

社団法人設立10周年記念事業

第6回土木施工管理技術論文募集 —CPDS登録対象—

土木施工管理技士の団体である(社)全国土木施工管理技士会連合会では、皆様より日頃実践されている土木施工管理についての論文を昨年に引き続き募集します。お寄せいただいた論文は全て論文集として印刷製本します。

優秀な論文に対しては、最優秀賞、優秀賞、技術論文賞の3賞を設け表彰を行うとともに、CPDS登録対象事業として応募者には5 UNIT、入賞者には7 UNITが付与、登録され、応募者全員に顔写真付きCPDS技術者証を発行いたします。技士各位の奮ってのご応募をお待ちしています。

入賞論文については、別に受賞論文集に取りまとめ、施工管理の技術交流や向上に役立ててまいります。

《募集要領》

募集対象者：技士会会員（土木施工管理技士）個人またはグループとします。（発注者との共同記述でも可）

分野：建設工事における土木施工管理に関する品質管理、工程管理、安全管理、環境対策、新技術等

字数：4000字程度（5000字以内）とします。なお、写真・図表は、1枚につき300字として計算して下さい。

締切：平成14年3月10日

応募先：各都道府県等土木施工管理技士会 事務局

『現場の失敗』寄稿のお願い

土木施工管理技士会では、『現場の失敗』をテーマに原稿募集いたします。

お寄せいただいた原稿は(社)全国土木施工管理技士会連合会発行の会誌「JCMマンスリーレポート」に掲載後、(株)山海堂より単行本として出版する予定です。

タイトル：現場の失敗「○○○○○○○○○○」

内容：あなた自身の、又はあなたの身近で起こった失敗例で、ちょっとした気のゆるみが招いたものを始め、無理な工期、工事費が原因となるもの、発注者が設計変更を認めないなど、施工者、発注者、コンサルタントの認識がかみ合わずに、結果として失敗につながった施工例など、失敗した原因とその結末、対処方法について、なるべく図を添付してお寄せください。

執筆者：すべて匿名とし、所属技士会名も掲載いたしません。

執筆者関係各位にご迷惑のかからぬよう、地名、固有名詞類も掲載いたしません。

字数：800字～2400字（図・写真がある場合は1枚300字で計算）

締切：平成14年3月10日

宛先：所属土木施工管理技士会 事務局 まで

応募者、寄稿者には全員、CPDSのUNIT（学習評価単位）が付与、登録されます。

技士各位の奮っての応募を期待します。

平成14年度 1、2級土木施工管理技士試験と講習会のご案内

～土木施工管理技士をめざして～

財団法人建設研修センターが建設業法に基づいて実施します「試験・研修」、また、(社)高知県土木施工管理技士会が行います「受験準備講習会」を次のとおり予定しています。

なお、申込み用紙(願書)の販売方法、講習会への受講申し込み方法については、決定次第会員各位の所属会社あてにご案内文書を発送いたします。

－ 実 施 予 定 －

◎ 検定試験

1級(学科)	申込受付	平成14年3月1日～3月15日(予定)
	試験日	〃 7月7日(日)(予定)
1級(実地)	申込受付	平成14年8月20日～9月3日(予定)
	試験日	〃 10月6日(日)(予定)
2級 (学科・実地同一日)	申込受付	平成14年3月1日～3月15日(予定)
	試験日	〃 7月21日(日)(予定)

◎ 技術研修

2級	申込受付	平成14年3月1日～3月15日(予定)
	研修日	〃 6月中旬から逐次実施(4日間)
	会場	高知市

◎ 受験準備講習会(「検定試験」受験に備える講習会)

1級(学科)	日程	平成14年5月28日～30日 〃 6月4日～6日	} (6日間)
	会場	高知市	

受講料	会員：45,000円・一般：48,000円
再受講者割引	(H12～13年度当講習会参加者) 会員：35,000円・一般：38,000円

「実力テスト」	日程	平成14年6月21日(1日間)
	会場	高知市
	受験料	受験講習会参加者：6,000円 テストのみ参加者：8,000円

1級(実地)	日程	平成14年9月3日～4日(2日間)
	会場	高知市
	受講料	会員：20,000円・一般：22,000円
再受講者割引	(H13年度当講習会参加者) 会員：18,000円・一般：20,000円	

2級	日程	平成14年6月11日～13日(3日間)
	会場	高知市
	受講料	会員：30,000円・一般：33,000円
再受講者割引	(H12～13年度当講習会参加者) 会員：25,000円・一般：28,000円	

